

## 高血圧精査受診者に対する睡眠時無呼吸検査依頼増加にむけての取り組み

◎中川 貴子<sup>1)</sup>、北森 友里恵<sup>1)</sup>、吉田 友里恵<sup>1)</sup>、吉澤 綾子<sup>1)</sup>、堀 美希<sup>1)</sup>、坂下 真紀子<sup>1)</sup>  
特定医療法人社団 勝木会 やわたメディカルセンター<sup>1)</sup>

【はじめに】2023年度改訂版『循環器領域における睡眠呼吸障害の診断・治療に関するガイドライン』では、閉塞性無呼吸が二次性高血圧のもっとも頻度が高い要因であり、高血圧診療では常に閉塞性無呼吸を念頭に置く必要があると明記され、診療フローチャートも記載されている。が一方で、実臨床では十分に検査がなされているとは感じ得ない。当院では、健診で高血圧を指摘された精査受診者に対し、検査項目をセット化し対応している。2021年4月、このセットに睡眠時無呼吸の簡易検査を追加した。

【目的】閉塞性無呼吸に関わる検査依頼数の動向を調査し、ガイドラインに沿った検査が実施されているかを検証する。

【方法】2018年4月から2023年9月までの期間、健診で高血圧を指摘された精査受診者279名について、検査セット変更前（変更前群）と後（変更後群）の2群に分け、検査依頼数および結果を調査した。あわせて2群における内分泌学的採血項目の実施率も調査した。

【結果】変更前群142名において、簡易検査実施者は正常（REI:5未満）1名、軽症（REI:5以上15未満）1名、中等

症（REI:15以上30未満）7名、重症（REI:30以上）5名の14名（検査実施率10%）。変更後群137名においては正常11名、軽症14名、中等症13名、重症9名の47名（検査実施率34%）であった。これらのうちPSG検査に進んだのは変更前群14名中8名、変更後群47名中15名であった。簡易検査結果およびPSG検査後にCPAP加療が開始となったのは、変更前群18名中11名（CPAP導入率61%）、変更後群43名中17名（CPAP導入率40%）であった。内分泌学的採血項目の実施率は、変更前群83%、変更後群89%であった。

【考察】セット項目に簡易検査を追加することにより、実施率が10%から34%に上昇した。しかし内分泌学的採血項目実施率と比し、睡眠時無呼吸検査実施率は依然高いとは言えない。睡眠時無呼吸検査実施者のうち、約半数で治療が必要になっていたことより、検査実施率のさらなる増加が望ましい。今後、この調査結果を臨床現場へフィードバックし、検査率向上の一助としたい。  
連絡先：0761-47-1212（内線2130）